

うに郷通信

No.168
令和5年(2023)7月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

「あっ！飛んでる」今年のホタル観察会報告

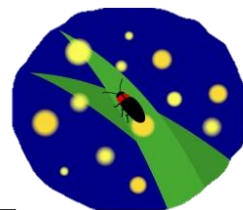
昨年は、これまでで一番多く参加していただいたのに、最悪の気象条件も重なりほとんど見ることが出来ませんでした。今年の事前の観察では、田谷町大歳神社から高月橋付近にかけて、5月18日に初めて飛翔が見られ、5月末には10数匹を確認しました。後は天候次第。

さて、6月3日、4日の当日です。ここ数年では、絶好の気象条件でした。3日は、満月で少し明るすぎたようですが、特に4日は、'曇りがちで風の無い、生温かい夜'にピッタリとなりました。源氏ボタルのゆっくり光を放ちながらの飛翔は何度見ても魅力的です。昨年も参加して下さった皆さんからは、「来てよかった。」の声が上がりました。3日は20数匹、4日は40数匹見ることが出来ました。両日で37人の参加でした。

6月12日にも約20匹の飛翔が見られ、少し光の弱い平家ボタルもありました。例年からいけば、20日すぎには蛍の季節が終わります。事前の観察では、獣害対策の電柵などの関係で観察会からは外していますが、田谷町のハチケツボ橋から小印南町にかけても多く飛翔がみられました。

油谷川だけでなく、宇仁地区のいろんな場所で蛍が見られます。来年は、広くホタル探検をしてみたいですね。

(里山・川環境整備部会)



“国正町のグラウンド”をご覧ください！



平成28年度、国正町では“県民まちなみ緑化事業”の一環として、グラウンドに芝生をはることになりました。また、「国正町三世代ふれあい事業」において、三世代が協力し、グラウンドの一部に芝生をはる作業を行いました。グラウンドの芝生化後は、環境維持管理として、町役員・シニアクラブ・隣保毎に当番を決め、毎月、芝刈り・草刈り・散水・溝掃除等の作業を行い、グラウンドの維持管理を行っています。とても美しくなっています。機会があれば、国正町グラウンドをご覧ください！（春には桜が満開です！）

また、令和4年9月にグラウンドゴルフができる50mのコースが完成しました。現在男性5人、女性4人の9人で練習しています。（毎週水・土曜日 午後1時～2時）

国正町のみなさん、美しくなったグラウンドでグラウンドゴルフを楽しみながら、健康づくりに努めてみませんか、一緒に汗を流しませんか。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。（国正町区長 長谷川基男）

学童保育の園庭に夏が来た！



5月16日の午後、地域の花植えボランティアさん達8人で子ども達をそーっと見守ってくれていたパンジーや金魚草を片付けました。寒い日も頑張ってお綺麗に咲き、園庭を明るくしてくれてありがとう。子ども達は花びらで色水を作って楽しんでいました。男性ボランティアは園庭や園舎の周りの草刈りをしてスッキリしました。これで思う存分サッカーや鬼ごっこをして遊んでください。花壇にはペンタス、ペチュニアを植え夏の準備が整いました。

ボランティアさん達は暑い中頑張り、子ども達が学童保育で園舎にやって来るまでに何とか終わりました。ご苦労様でした。

6月になって園舎の横に紫陽花が綺麗に咲いていました。10本ほどいただき、ふれあい喫茶のテーブルに飾りました。綺麗なブルーで爽やかな雰囲気にもまれ、コーヒーを飲みながら楽しみました。（花植えボランティア）

最後のツバメの子育て・・・旧宇仁幼稚園

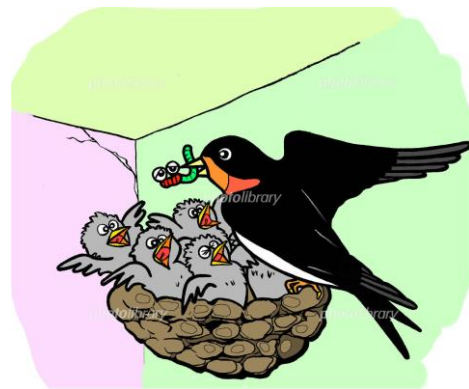
旧宇仁幼稚園は、泉よつばこども園に統合された後、令和2年度より、加西市の協力もあって、「宇仁ふれあいバス」の事務所として活用しています。

ところで昨年は、事務所玄関の外側にツバメが巣づくりをして4羽が巣立っていったのですが、今年はトイレ入口の頭上に新居を作り出しました。ツバメのカップルには申し訳ないことでしたが、頭上のフン害の問題もあり、テープを下げたり、作りかけの巣を壊したりしました。でも彼らはあきらめませんでした。せっせと一から巣づくりを始めるのです。「ツバメの子育てにご協力下さい。」と張り紙をして見守ることにしました。

その後、今年も6月10日に4羽が飛び立ちました。数日後、さあ、掃除だと片づけようとした時、チュッチュッ チュッチュッと園庭を飛び回るので。同じカップルかどうかはわかりませんが、もう卵を温めているようなのです。

さて、今から40年前に建てられた宇仁幼稚園(宇仁保育園)は、よつばこども園建設の国からの補助の条件として、本年中にいよいよ解体撤去される予定です。

最後のツバメが元気に育ちますように。来年には、新しいお家が見つかりますように。そうそう、宇仁ふれあいバスの事務所も決まりますように。
(宇仁ふれあいバス部会)



宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達⑩

宇仁郷まちづくり協議会

8. 宇仁郷通信が発刊される

平成21年3月に協議会の活動を紹介する宇仁郷通信の第1号が発行されました。繁田昭彦さんが活動を広く紹介する広報誌の必要性を提案され、記事集めは役員が協力することにし、パソコンと編集の知識が豊富な繁田昭彦さんが初代編集長になりました。

宇仁郷通信はA4版の月刊誌で月始めに宇仁6町各戸と関係先に配布され、毎年1月には市役所ロビーに掲出し、1ヶ月間市役所を訪れる市民の皆さんにご覧いただき、活動のPRのため“宇仁郷のカレンダー”を贈っています。後に、紙面もカラー化され稲木秀子さんが部会情報をつとめまとめ作成されている“月間スケジュール”も添付されるようになりました。

このように、宇仁郷通信の紙面が年々充実し、広報のノウハウが蓄積され、後の情報部会の設立につながっていきます。

宇仁郷通信が発刊されて令和5年3月号でまる14年を迎えましたが、編集長も繁田昭彦さんから平成26年11月のNo.65ぐらいから繁田利成さんが2代目編集長になられ現在に至っています。



宇仁郷通信第1号

編集後記

新型コロナウイルスが話題になって3年半になりました。今年第5類に移行されインフルエンザと同じ扱いになりました。コロナ禍の影響で行事を自粛したり、やり方が大きく変更されたりして、その影響は大きなものがあります。その一つとして、葬儀はほとんどが家族葬になり、第5類に移行されてからも元にもどる気配はありません。超高齢社会となり、ご近所のお付き合いも薄れてきている中、時代の流れかも知れません。

さて、私が所属している団体では、コロナ禍が始まってから緊急事態宣言が発令されている時を除いて、バス2台での日帰り学習旅行や親睦旅行(年間3~5回実施)を、バスの乗車定員こそ30人ぐらいに絞り込みましたが、この3年間ほとんど中止せず、参加希望者が多いため昨年は補助席を除いた定員いっぱいまで許容して実施してきました。コロナ禍の中で不謹慎と思われるかもしれませんが感染もなく、事業に対するリーダーの熱意と徹底した予防策の賜物と思っています。
(情報部会)